

令和3年度第2回佐賀県訪問看護ステーション連絡協議会講演会及び意見交換会
議事録

日 時：令和3年10月30日（土）14：00～16：00

場 所：①佐賀メディカルセンター 4階・城内記念ホール
②オンライン開催（Zoom）

出席者：32名（会場・18名、オンライン・14名）

1. 山津会長あいさつ

- ・今年度2回目の講演会。
- ・訪問看護サービスは各事業所の質の向上や、各地域のニーズに見合うサービスの提供が求められており、今回の研修は、事業所の運営やサービス提供の内容等を評価し、課題を明確にすることを目的に「訪問看護ステーションにおける事業所自己評価」をテーマとして開催。
- ・新型コロナの影響で、訪問看護の業務も増え、役割も増えてきて大変な現状ではあるが、今後に向けて今回の研修はしっかりと学んでいただきたい内容である。

2. 講義 14：00～15：00

司会：秋庭美幸理事

演題：「訪問看護ステーションにおける事業所自己評価のガイドラインについて」

動画視聴（全国訪問看護事業協会作成）

実技（演習）ガイドライン評価項目の【26】『終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後及び死までの経過を説明し、記録として残している』について

3. 意見交換 15：00～16：00

① 実技（演習）で、【26】の評価をやってみて

- 振り返りの良い機会である。必要なケアの内容も考えることができる。
- 業務に追われて出来ていない現状がある。デスカンファの進め方がわからないので、これをきっかけに勉強会があればいいのに…と、拡げて考えられる。
- デスカンファは朝礼で振り返りをしているが、ただし書面に残していないので、そこに気付くきっかけになる。
- デスカンファの必要性を再認識。それぞれの思いを知る機会、引っ掛かりがあれば次の看護に影響が出る。吐きだせる環境の場の必要性を感じた。
- スタッフ同志のグリーフケアも大事、振り返る機会の重要性がわかる。
- 重要性をわかっているながらカンファの機会を設けていなかった。自己評価で振り返ることが出来た。

② 実施経験者への質問

Q) ガイドライン 42 項目にかかる記入時間はどれくらいかかるのか？

もっと簡単にできないだろうか。介護保険の情報公表などどう違うのだろうか。すぐにやるのは難しい。

A) メモも入力すると 1 時間では済まない。何日かに分けて実施した。

管理者だけでなく、スタッフを巻き込むことが大事、他事業所との比較もでき、自施設の強みも確認できた。

スタッフの入力は、管理者よりも少ない。スタッフの気づきや提案が見えた。

③ 感想

- 精神科の訪問看護中心のステーション。連携している事業所がある。評価項目で連携の項目もあり、確認してみたい。
- 母体病院が ISO の評価を受けているのでその中で評価を受けている。グリーンケアなどしてみようと思った。
- スタッフの参加。管理者は大変だなと思った。業務に流されがちで振り返る機会になればいいと思った。
- 入職したばかり。どこでも振り返りは大事だなと思った。
- 自分の看護の意味づけになると思った。また課題の発見のためにもやってみないといけないと思った。
- スタッフと一緒に、というところで心がほぐれた。
- デスカンファも以前は他事業所と多職種で出来ていたが忙しくなって出来なくなった。形式にこだわらずやっていけばいいと思った。でも、記録に残すことが必要。

以上

書記：吉井朋代